日刊工業新聞

年月日	16	11	01	ページ	04	NO.	

理系女性の挑戦

凛としていきる

塗装工事の職人に

女性目線で現場より良く

「アートっぽいことがしたい」―。そんな漠然とした理由で塗装工事会社に就職した。しかし、私は今やりがいに満ちあふれている。「作業スピードが上がった。前回よりうまくできる」―。日々、技術が身に付いている。それがうれしくてたまらない。

一概に塗装と言っても塗るだけではない。特殊塗装などもあり作業内容は幅広く、技術習得に時間がかかることもある。だからこそ〝向上心〟が現場仕事で一番大切になる。ただ手を動かすだけでは技術は身につかない。

先輩職人は本気で仕事をしているかどうかをすぐに見抜く。職人と言うと無口で近寄りがたい印象があるかもしれないが、今はそんな人は少ないと感じる。しかし、自分の腕で生き抜く業界の体質は変わらない。いつだって真剣勝負なのだ。だから、私たちにも本気で向き合ってくれる。成長を止めてしまっては現場での存在価値はないと思う。

現場で作業する仲間たちと

最近は、建設現場で女性を見かけることも増えた。少しずつ建設業のイメージが変わってきたのだと思う。

それでも安全に歩くためのルートは男性トイレの前を横切らなくてはならないといった課題が残る。男性には普通のことでも女性は気になってしまう。まだまだ女性の目線が行き届いていないのが現状だ。より多くの女性を雇用していく上で環境改善は欠かせない。

女性目線を活用した現場は男性も心地よく感じるはずだ。どの現場にも男性更衣室がなく、着替え中の職人に出くわしてしまう問題は男女共に不快感を感じるのではないか。女性だけに特化しても改善にはつながらない。お互いに不快感のない過ごしやすい環境が必要ではないだろうか。

将来は、塗装職人たちを束ねる職長になりたい。みんながさらに前向きに作業し、愛着を持てるような現場を作っていきたい。現状を受け入れて、これが建設業の当たり前だと諦めてはいけない。普段からよりよい現場を提案して、女性でも働きやすい環境をつくりたい。1人でも多く「建設現場で働いてよかった」と思ってもらえるよう努力していきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

KMユナイテッド工事部
浦西（うらにし） 明日香（あすか）

〈プロフィル〉12年京都文教大臨床心理学部卒、同年映像会社の制作進行に入社。退職後、13年11月KMユナイテッド工事部に職人として入社。

無断転載・複写禁止©㈱日刊工業新聞社